

目 次

(編集者)

第1部／報告

子どもと教育	加藤 隆勝	1	
I 子どもの発達と教育		1	
身体発達の加速	1	発達加速をもたらすもの	4
新しい指導の必要性	5	重要な児童期の充実	7
青年期の延長と中学生時代の意味	10		
II 子どもからみた学校生活		13	
学校生活への満足度	13	勉強の理由や目的	18
生きがい感を規定する学校生活	21		
III 子どもの生き方と親子関係		22	
私生活中心の幸福感	22		
親子間の情緒的融合と父親のあり方	25		
子どもへの過剰な期待とその克服	30		
IV 教師の意識		31	
教師のイメージ調査	31		
必要な明るいイメージの回復	32		
協力的な指導体制確立のために	33		

著 (1981) 宇野浩二

東京大学教育学部 入道員

一 次 大 夫

児童の発達も社会参加活動の一つ

第2部／座談会

今日の青少年.....36

出席者 原島 信義 青井 和夫
加藤 恭子 千石 保
加藤 隆勝
司 会 並木 正吉

I 何が問題か.....37

身体発達の加速.....38 教師のイメージ調査.....39

聞く耳をもたぬ子どもたちと母親の責任...40

人の生きがいとは中学生のころ決まる...41

自己忠実主義.....41

現代っ子に対する評価・弱い者いじめ...42

校内暴力の根本にあるもの...43

II 身体発達の加速化と早い成熟.....45

身体発達加速化の原因は何か.....45 栄養の改善.....46

テレビの影響が決定的.....46

成熟の前傾は都市化現象による...47

僻地の子どもも大きくなった...48

III 弱い者いじめ.....49

集団でする陰湿ないじめ方...49

スケープゴートにしやすいタイプ...50

意識調査のウソネとホンネ...51

大人のいないところでいじめるイギリス...52

攻撃性の発散が大切——騎馬戦の意味...53

前者の轍——アメリカの万引とヴァンダリズム...54

ギャング・エージの消滅.....54 受験勉強と攻撃性の関係.....55

日本の受験制度は公平な実力主義...57

非行・アメリカと日本の比較...58

IV	現代の若者、その立場と人生観	59
	人生のパターンが見えてしまう	59
	人生すべて人工的ゲーム	60
	死に出会う機会が60歳までではない	61
	「自分なりに」について	62
	自分のしたいことをし、幸福にならねばならないという意識	65
	多様な生き方を受け入れている現代	66
	豊かさの中でのしつけ	67
	つくられた自己実現	69
	貴族的な選択	70
	アメリカの高学歴女性と日本の青年団	73
	大切な、みずみずしい感受性	74
	長いものには巻かれろ式になった日本の若者	74
V	いかに取り組むか	77
	アルバイトのすすめ	77
	アルバイトで便所掃除の経験	77
	体験的学習の必要	79
	大切な高い志	82
	挫折感が長く生涯に尾を引く	83
	弾力的な運営を	85
	6・3・3制の3と3を一緒にできないか	88
	母親の役割について	90
	家庭教育が根本	91
	あいさつの教育	92
	再び校内暴力について	95
	性非行と薬物乱用はふえそう	96
	校内暴力を隠さなくなった	97
	美談でなく落ちこぼれに対処できないか	98
	最後に一言ずつ	98